



# 立体花壇のデザイン

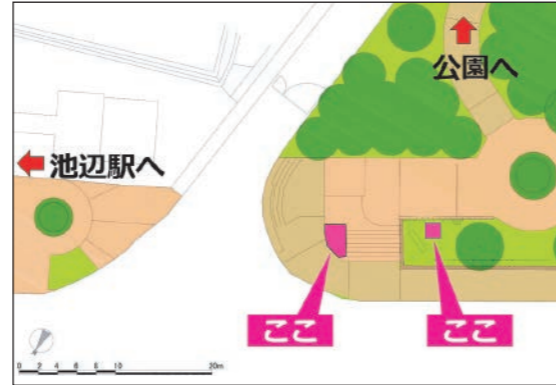
花壇をデザインするには、以下のポイントを考えます。

- ①花壇の現況 → 花壇を作る場所、大きさ、目線などを確認します。
- ②デザインの視点 → 人・車の視線、エントランス感、全体の統一性
- ③デザインの方向性 → テーマ、テーマカラー、区割りの設定
- ④図面の作成 → どの区割りに何の花ををどれだけ植えるかを検討します。

## ①花壇の現況、②デザインの視点

今回の立体花壇は、緑道入口（池辺駅方面の入り口）に設置します。公園中心部からは離れますが、道を行き交う人や車からも見える位置です。

また、秋のフラワーフェスタに向けて作成するというので、デザインの方向性を決める際には、季節のイベントであることを意識します。



## ③デザインの方向性

花壇のテーマは、いくつかのキーワードの中から「にぎやか」「元気」「楽しい」「実り」「はじまり」「歓迎」といった、花壇に合う言葉を選び、それらを組み合わせる以下のように決めました。

ドキドキ あなたを迎える充実感

ようこそ！彩りの果実をめしあがれ！！

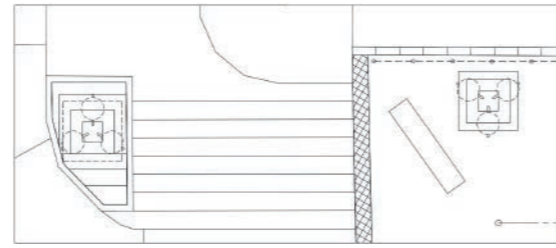
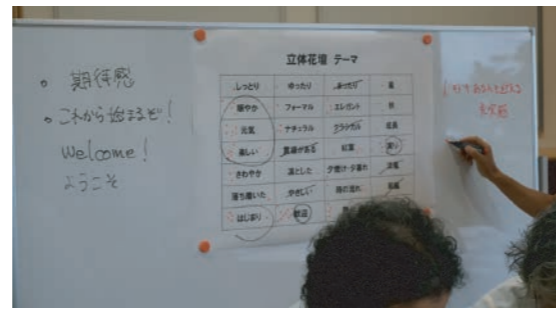
このテーマに合わせて、テーマカラーはオレンジ、黄色、紫とし、花壇の区割りは、植栽柵の形に沿って四角く縁取り、中心に向かって草丈が高くなるように設定しました。

## ④図面の作成

③で設定したテーマカラー、区割りとなるように、配置を検討しました。今回は立体花壇班、花壇A班、花壇B班の3つのグループに分かれて、1/10に縮小した図面上で、花のカードをパズルのように並べながら作業を行いました。

配置を考える際は、色合いや背丈の高さだけでなく、花や葉のテクスチャーも考える要素となります。「立つ」「広がる」「垂れる」「這う」「実がなる」「穂がある」など、植物の特徴を生かされると、季節感やテーマをより表現しやすくなります。

各グループで数パターンの配置を考え、最後に立体花壇、花壇A、花壇Bを組み合わせる全体の配置を決定しました。この配置案を基に、苗の流通数などを調整し、花壇の施工を行います。どんな花壇になるか楽しみです！



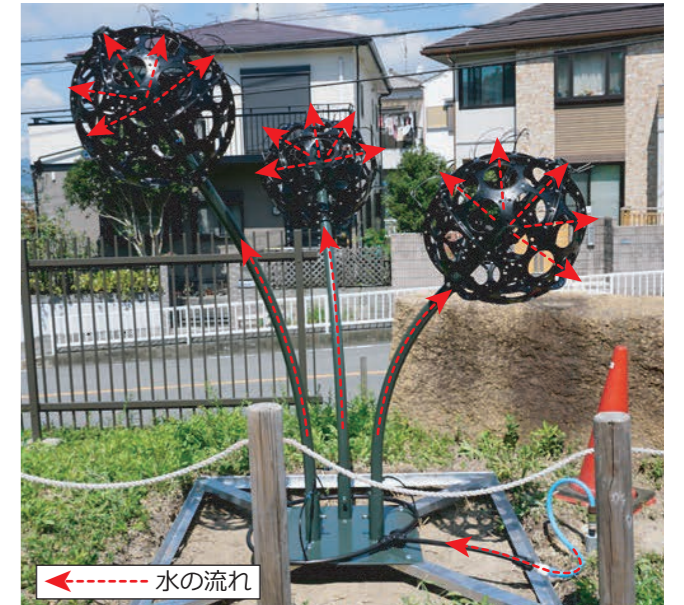
# 質問コーナー

## Q. 立体花壇の仕組みはどうなっているの？水やりはどうするの？

立体花壇は、ポールの先端に穴の開いた球が付いており、その球に苗をはめ込む構造となっています。ポールの中に灌水チューブが通っており、球の中で水を噴射します。

地植えではないので、ハンギングバスケットと同様に乾燥しやすく、水切れを起こしやすいです。また、最高点は2.0mの高さになるので、ジョウロを使った水やりは困難です。そこで、この立体花壇は水やりはタイマーで管理し、自動的に行います。

水をやっている最中は、花壇の下にいると濡れてしまうので、人の少ない時間に行いますが、興味のある方は水やりの様子もぜひ見に来てください。



## Q. 花の時期と見頃がうまく合う？シーズンが終わったら、花の手入れはどうするの？

花壇に使用する花は秋に咲く花を選んでいます。気温や天気などに左右されるので、フラワーフェスタの時期に満開になるかどうかは、やってみなければ分かりません。このワークショップでは、毎年フラワーフェスタの約2週間前に苗の植え付けを行っています。今年の植え付けは9/25（水）に行い、フラワーフェスタは10/12（土）～10/20（日）ですので、例年通りの天候だとよく見頃を迎えることが出来ます。

立体花壇に植える花は、高い位置にあるため花殻摘みなどの手入れをすることは困難です。ですので、この立体花壇は常設ではなく、イベント用と考え、仮設の花壇として扱います。

## Q. 土の配合はどうすればいいの？

ホームセンターなどには、予め配合された培養土が売っていますが、自分で用土を作る場合は数種類を配合します。何を植えるかによってブレンドの割合は変わってきますが、植物に適した基本用土を選び、それを補う土壌改良土を混ぜるという方法は共通です。

以下に紹介しているのは、標準的な配合例として、混ぜる用土、土壌改良材の分量を全て同じにしたものです。実際にご自身で配合する際は、この土をベースとして、植える植物や庭土の状態を見て、足りない要素を足してください。

### ◆用意するもの◆

- ・トロ箱（なければタライなど）
- ・バケツ
- ・クワ/スコップ
- ・赤玉土
- ・腐葉土
- ・バーク堆肥
- ・パーライト
- ・バーミキュライト
- ・緩効性肥料



- 1 用意した用土と土壌改良材をバケツを使って同量ずつ量ります。（バケツ1杯ずつ等）
- 2 同量ずつ量った用土と土壌改良材をトロ箱に入れ、その全体量に適した量の緩効性肥料を入れます。
- 3 クワやスコップを使って、全ての用土を土壌改良材が均一になるように混ぜ合わせます。トロ箱の端などは特に混ぜ残しがあるので注意します。
- 4 均一に混ぜ合わさったら出来上がりです。これをベースに、排水性を高めたい場合はパーライトを足す、保肥性を高めたい場合は腐葉土を足す、などして調整します。

# 花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **01**  
令和元年9月13日号



日時：令和元年9月13日（金）  
9：00～12：15  
場所：馬見丘陵公園  
ボランティアハウス  
参加者：27人

9：00～9：20 全体説明  
9：20～10：15 ハンギングバスケット作成  
10：15～10：30 休憩  
10：20～12：10 立体花壇デザイン  
(グループ作業)  
12：10～12：15 質問、アンケート

## 今年度の全体スケジュール

今年度もフラワーフェスタ、チューリップフェアに向けた花壇づくりワークショップが始まりました。今年度は立体花壇のデザイン・施工と、ハンギングバスケットの作成に挑戦します。冬は室内で講習会とハーバリウムの作成を行います。

	開催日	内容
第1回	9/13（金） 9:00～12:00	・オリエンテーション ・ハンギングバスケット作成 ・立体花壇デザイン（秋花壇）
第2回	9/25（金）※ 9:00～12:00	・立体花壇施工（秋花壇）
第3回	12/12（水） 9:00～12:00	・宿根草のデザイン講習 ・腐葉土の作り方、肥料の使い方講習 ・ハーバリウム作成
第4回	2/27（水） 9:00～12:00	・ハンギングバスケット作成 ・立体花壇デザイン（春花壇）
第5回	3/13（水）※ 9:00～12:00	・立体花壇施工（春花壇）

※雨天の場合は、9/27（金）、3/15（金）に延期となります。



## ハンギングバスケットの作成

ハンギングバスケットとは、空中へぶら下げたり、壁に引っ掛けたりして、植物を寄せ植えするための容器のことを言います。今回のワークショップでは、空中へぶら下げるタイプのハンギングバスケットの作成を行いました。これらは、秋のフラワーフェスタで、県民共同花壇の横に展示します。



今回は、全部で35個のハンギングバスケットを作成しました。どの方向から見るか、背の高さや葉の垂れ具合など、それぞれの苗の特徴を見ながら配置を考え、植え付けを行いました。以下に今回使用した花を紹介します。



◆レッド系◆



アジュガ（共通） ペンタス（赤）



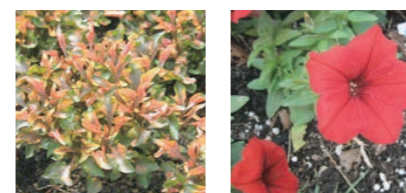
サルビア splendens（赤） アカバセンニチコウ



カレックス ゴシキトウガラシ（黒葉）



ゴシキトウガラシ（赤実） ベゴニア（赤・銅葉）



アキランサス（赤葉） ペチュニア（赤）



◆イエロー系◆



アジュガ（共通） マリーゴールド



キバナコスモス アカバセンニチコウ



カレックス ゴシキトウガラシ（紫葉）



ゴシキトウガラシ（黄実） ジニアプロフェーション（黄）



ジニアプリネリアス（橙） ペチュニア（黄）



◆パープル系◆



アジュガ（共通） ペンタス（紫）



アングロニア（紫） セロシアイテンツ（紫）



ゴシキトウガラシ（黒葉） ゴシキトウガラシ（紫葉）



ゴシキトウガラシ（赤実） ジニアプロフェーション（紫）



センニチコウ（赤紫） ペチュニア（紫）